

龍谷大学大学院 国際文化研究論集

第12巻 2014年度

—目 次—

〈論文〉

明治期における妾と女性の立場
— 柳満喜子の視点から —

..... 鹿田 昌子

ジャポニズム小説がもたらした日本人女性表象
— 「オノト・ワタンナ」はなぜ日本人女性に自分を仮託したのか —

..... 上田 奈央

南九州における十五夜行事の研究

..... 丸山 誌野

〈研究ノート〉

九州・四国地方の茶文化の多様性
— 製法を中心に —

..... 廣部 綾乃

〈シンポジウム〉

2014年度龍谷大学国際文化学研究科FD研究会
龍谷大学国際文化学会研究大会
『多文化共生とナショナリズム ～国際文化学が目指すもの～』

龍谷大学大学院
国際文化研究論集編集委員会

**龍谷大学大学院
国際文化研究論集**

— 目 次 —

〈論 文〉

明治期における妾と女性の立場

— 柳満喜子の視点から —

The System of Keeping Mistress in Meiji Period and Women's Position

— From a case study of Makiko Hitotsuyanagi —

..... 鹿田 昌子 5

ジャポニズム小説がもたらした日本人女性表象

— 「オノト・ワタンナ」はなぜ日本人女性に自分を仮託したのか —

Representation of Japanese women in "Japonism Novels"

— Why did "Onoto Watanna" disguise herself as a Japanese woman? —

..... 上田 奈央 19

南九州における十五夜行事の研究

Study on *Jugoya* full moon festivals in the South Kyushu

..... 丸山 誌野 35

〈研究ノート〉

九州・四国地方の茶文化の多様性

— 製法を中心に —

Diversity of Japanese Tea Culture in Kyushu and Shikoku areas :

focusing on the tea making process

..... 廣部 綾乃 47

(開催報告) 2014 年度龍谷大学国際文化学研究所 FD 研究会

龍谷大学国際文化学会研究大会

『多文化共生とナショナリズム ～国際文化学が目指すもの～』

..... 61

題目一覧 69

執筆者紹介 70

内 規 71

投稿規程 72

編集後記 73

2014 年度 3 月 修士課程 修了生 修士論文題目一覧

題 目	氏 名	(指導教員)
ジャポニズム小説にみる日本人女性表象 —日本人女性作家「オノト・ワタンナ」はフェイクなのか—	上 田 奈 央	ジョナ サルズ
南九州と南西諸島における十五夜行事の研究 —相撲と綱曳きを中心にして—	丸 山 詩 野	朴 炫 国
アジアにおける絣織物の伝播と受容 —インドから琉球王国までの経緯 絣の影響を中心に—	森 西 麻 衣	福 山 泰 子
渤海の墓制研究 —墳墓の等級を中心にして—	張 雷	徐 光 輝

執筆者紹介

(掲載順)

鹿田昌子	本学国際文化学研究科	博士後期課程2年
上田奈央	本学国際文化学研究科	修士課程2年
丸山詩野	本学国際文化学研究科	修士課程2年
廣部綾乃	本学国際文化学研究科	博士後期課程2年

龍谷大学大学院国際文化研究科研究論集内規

制 定 2002年12月11日

一部改正 2006年 4月12日

一部改正 2010年 6月 2日

(目的と名称)

第1条 龍谷大学大学院国際文化研究科の院生による国際文化に関する研究を奨励し、その成果を発表する場を提供するため、「国際文化研究論集」を発行する。

(編集委員会)

第2条 「国際文化研究論集」の編集に関する責務を果たす編集委員会をおく。

- 1 編集委員会は、国際文化研究科に所属する若干名の教員により構成する。
- 2 編集委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 3 編集委員会の委員の互選による委員長をおく。
- 4 編集委員会の委員長は委員会を招集し、その議長をつとめる。

(投稿資格)

第3条 「国際文化研究論集」に投稿できる者は、下記のとおりとする。

- (1) 国際文化研究科に在学する者
- (2) 国際文化研究科修士課程を修了して3年を経過していない者
- (3) その他、編集委員会が認めた者

(論文募集・審査・掲載)

第4条 「国際文化研究論集」に掲載される論文は、別の投稿規程にもとづき公募し、応募論文については、編集委員会が審査をおこなう。

(論文の電子化)

第5条 掲載論文等の著作権は執筆者に帰属するが、本学及び国立情報学研究所等が論文等を電子化により公開するものについては、複製権及び公衆送信権の行使を国際文化研究科に委託するものとする。ただし、電子化による公開は執筆者の許諾を得たうえでおこなうものとする。

(事務)

第6条 「国際文化研究論集」に関する事務は、国際文化学部教務課がおこなう。

付 則

この規程は、2002年12月11日より施行する。

付 則 (2006年4月12日第2条第1項改正)

この規程は、2006年4月12日より施行する。

付 則 (2010年6月2日第5条新設、第6条繰下および名称変更に伴う改正)

この規程は、2010年6月2日より施行する。

『国際文化研究論集』投稿規程

制 定 2003年 3月 5日

一部改正 2006年 1月18日

一部改正 2013年 7月24日

執筆要項

- 1 本誌は国際文化学に関する論文、研究ノート、書評などを内容とする。原則として、未発表のものに限る。
- 2 編集委員会の依頼による査読を行い、掲載・不掲載、書き直しの有無、掲載形式などを決定する。
- 3 論文の長さは次の通りとする。
 - a 論文はA4用紙（原稿の様式は第5項の通りとする。以下同じ。）で15枚までとする。
 - b 研究ノートはA4用紙で10枚までとする。
 - c 書評はA4用紙で5枚までとする。
- 4 和文原稿の場合は英文タイトルと英文要旨（150語）を、英文原稿の場合は和文タイトルと和文要旨（300字）を添付すること。また、論文・研究ノートには本文以外の言語による抄録（A4用紙で1枚以内）を添付すること。日本語、英語、フランス語、中国語、コリア語以外で抄録を書く場合には、事前に編集委員会に相談して許可を得ること。
- 5 執筆の細目は次の通りとする。

原稿はワープロ文書にてハードコピーと電子媒体を提出すること。

原稿の様式は、A4版の用紙に横書き一段組みで、余白は左右30ミリ、上下35ミリとし、ページあたり38字×37行で設定する。

本文のフォントは、和文の場合は明朝体でサイズ10.5ポイント（タイトルは12ポイント）、英文の場合はTimesでサイズ11（タイトルは12ポイント）を基本とする。

和文論文名は一重カギ（「」）、和文書名は二重カギ（『』）、欧文論文名はクォーテーション・マーク（" "）、欧文書名はイタリック体（または書名にアンダーライン）で表示すること。

投稿資格

原則として龍谷大学大学院国際文化学研究科修士課程・博士後期課程在学者ならびに研究生・特別専攻生とし、投稿の際、指導教員の推薦を受けること。ただし、編集委員会が認めた者はこの限りでない。

投稿先

龍谷大学国際文化学部教務課内「『国際文化研究論集』編集委員会」。

投稿期限

原則として発行年度の9月末日。

付 則

この規程は、2003年3月5日から施行する。

付 則（2006年1月18日「投稿資格」改正）

この規程は、2006年1月18日から施行する。

付 則（2013年7月24日「3、4、5、投稿資格」改正）

この規程は、2013年7月24日から施行する。

編集後記

今号では、計5本の投稿原稿のうち、3本の論文と1本の研究ノートを掲載することができました。

今年度は原稿の揃う時期が遅かったために、学部移転の引越しや定期試験の準備・採点で多忙を極めているなかでの査読依頼となってしまう、査読者には大変ご迷惑をおかけいたしました。無理なお願いを引き受けてくださった先生方には、心から感謝申し上げます。

今号では、修士課程に在籍する2名の投稿論文が掲載されております。今後も、修士課程の学生には奮って投稿して頂きたいと思います。私自身、学生時代に3回この論集へ論文を投稿しておりますが、指導教員以外の先生から厳しい査読コメントを受け、修正を重ねて原稿を完成させるプロセスを経験できたことはとても貴重であったと認識しています。

「シンポジウム 多文化共生とナショナリズム ～国際文化学が目指すもの～」については瀧口順也先生に原稿作成をお願いし、編集委員会は完全原稿として受け取りました。ありがとうございました。

林 則仁

龍谷大学大学院国際文化研究論集編集委員会 委員 瀧本 真人
委員 林 則仁

龍谷大学大学院国際文化研究論集

第12巻

2015年3月 発行

編 集 龍谷大学大学院国際文化研究論集編集委員会
発 行 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
電話 077-543-7670

印 刷 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
電話 075-343-0006

THE BULLETIN OF THE GRADUATE SCHOOL OF INTERCULTURAL COMMUNICATION RYUKOKU UNIVERSITY

vol. 12 2014

—CONTENTS—

- The System of Keeping Mistress in Meiji Period and Women's Position
From a case study of Makiko Hitotsuyanagi
..... SHIKATA, Masako
- Representation of Japanese women in "Japonism Novels"
Why did "Onoto Watanna" disguise herself as a Japanese woman?
..... UEDA, Nao
- Study on *Jugoya* full moon festivals in the South Kyushu
..... MARUYAMA, Shino
- Research Note: Diversity of Japanese Tea Culture in Kyushu and Shikoku areas
focusing on the tea making process
..... HIROBE, Ayano
-

**Published by the Editorial Committee of
the Bulletin of the Graduate School of
Intercultural Communication
Ryukoku University**